

『谷合氏見聞録』を読む —2017 年から 2019 年—

○『谷合氏見聞録』を読む

さかのぼること 2017 年 7 月 13 日開催の会合において『谷合氏見聞録』の紹介がなされ、その翌週頃より読み合わせが始められました。

○『谷合氏見聞録』（以下『見聞録』）とは？

清水利氏による「『谷合氏見聞録』について」（2008『青梅市史史料集第五十四号』青梅市教育員会所収）によれば、三田氏没落にあたり、二俣尾村辛垣城に没落の際に、三田氏の遺子を預かり土着した三田の旧臣谷合太郎重久信を祖とする一族とのこと。

『見聞録』の書き残した谷合七兵衛吉治は七代目とのこと。七代目谷合氏による『見聞録』は元禄十一年・1698 年から延享元年・1744 の 47 年間の見聞が書き留められているそうです。

いくつかの話題を紹介しますと、例えば天変地異の記述が挙げられます。「元禄地震」や「富士山宝永大噴火」（別稿にて紹介）などが生々しく書き留められています。その他にも為政者たちの動向、「琉

球使節」や「朝鮮通信使」の往来の様子なども書き留められています。

また象の来日、経済活動としての「筏流し」、ニホンオオカミをはじめとした野生動物による被害や義賊をめぐる話題も取り上げられており、往時の地域社会や世相を振り返るという観点から見ても大変に意義深い内容のものです。

なお、清水利氏により『見聞録』は東京大学史料編纂所に学術研究のために貸し出され、修復されて清水氏のもとへ返却されました。近年、『見聞録』を相続した清水高志氏により青梅市郷土博物館へ寄贈されました。この『見聞録』の寄贈を記念して「一名主が見た江戸時代～谷合氏見聞録の世界～」という企画展示が2017年春に青梅市郷土博物館にて開催されました。当会では、西多摩地域における郷土理解を深めるために2017年より2019年まで延べ三年かけて『見聞録』を読み進め西多摩地域への理解を深める契機としてきました。

○谷合家探訪 2018年10月18日

『見聞録』を読み進めながら、谷合家が存在した二俣尾村を探訪し谷合家ゆかりの場所の踏査が、当会代表の坂本さんの主導により企画立案されて挙行されることになります。取り上げた史料への理解を

深めるために現地踏査は有力な手段と言えます。私たちは数か月かけて地図等での現地確認作業を行い、ついに 2018 年 10 月 18 日現地踏査にこぎつけました。

午前 10 時 15 分青梅駅集合。参加者は坂本・秋山・井上・三浦・山根の五名。青梅駅より軍畑へ電車で移動し、平溝川沿いを歩きます。この道は、高水三山ないし雷電山・辛垣城へ向かう榎峠へ向かいます。平溝橋周辺にて谷合家の墓所の場所を尋ね、山道を分け入り墓所や旧谷合家の屋敷跡を確認しました。その立地は山城そのものに見えます。そこから山道を下り軍畑駅より一駅電車で移動し二俣尾駅にて下車しました。そこから海禅寺に赴きます。ここで三田氏の墓所を確認しました。三田氏の遺子を引き取り育てた谷合氏に思いを馳せつつ沢井駅にて反省の宴。充実した踏査・探訪の一日となりました。

主要参考文献

『企画展「一名主が見た江戸時代～谷合氏見聞録の世界～」』（2017 年 3 月、青梅市郷土博物館）

『青梅市史史料集第五十四号 谷合氏見聞録 付・伊勢参宮道中日記 青梅稿資料集』（2008 年 2 月、青梅市教育委員会）

2020 年 8 月 26 日 記録・撮影 山根伸洋



軍畑駅を下車し谷合家の墓所や旧家の場所を探します。



あらかじめ準備してきた地図を見ながら相談中です。



地元の方と地図をもとにして場所の確認をしています。快く対応いただきました。ありがとうございます。



石積みされた土台の上に立派な墓所があります。現在では、谷合家の墓所は他所へ移転されたそうです。



墓所にて参加者の集合写真です。みなさんお疲れ様です。



墓所より旧谷合家へ向かいます。険しい山道を歩きます。人の通行が絶えたと踏みあとは自然のなかに埋没していきます。



旧谷合家の跡地です。立派な石積みで大きな門構えであったことがうかがえます。



旧谷合家の敷地の中には土蔵などの建物の遺構もそのまま残っています。



旧谷合家敷地を振り返ります。まさに山城ともいえるロケーションです。



ようやく高水山登山口と軍畑駅の分岐地点まで下山？しました



二俣尾駅から海禅寺通りを海禅寺に向かいます。



「海禅寺境域」にかんする由緒です。海禅寺の境内には三田氏の供養塔もあるそうです。